

技術士業務研究会／平成27年8月度例会案内

☆協 力：日本技術士会近畿本部

☆開催日時：平成27年8月7日（金） 18:30～21:00

☆開催場所：大阪科学技術センタービル601号室

☆開会のご挨拶：業務研究会 部会長 技術士（機械） 中塚 勉 氏

☆講 演

1. (18:35～19:35)

【ご講演タイトル】：『未来（水素）社会に向けて』

株式会社テス・リサーチ 代表取締役 技術士（化学、総合技術監理） 末利 鏡意 氏

【ご講演概要】

IPCCの報告では、地球温暖化は人為的なCO<sub>2</sub>排気が主な原因であり、気温を産業革命以前から2℃以下に抑えるためには、2050年までにCO<sub>2</sub>排出を現状の半分にする必要が有るとしている。日本は原発で乗り越える計画だったが、2011年3月11日の福島原発の事故で、原発が全て停止し、新たなCO<sub>2</sub>削減策が模索されている。省エネルギーと再生可能エネルギーの推進が求められているが、太陽光発電や風力発電などはお天気任せで不安定である。需要に合わせてエネルギーを供給する仕組みが求められている。

そこで、エネルギーの輸送や貯蔵の手段として、水素をエネルギー媒体とした社会が模索されている。

家庭やオフィスでは燃料電池コージェネレーションが普及しつつある。また、運輸部門ではトヨタが水素燃料電池車を発売した。本報告では以下について述べる。

- 1) 水素社会のイメージ
- 2) 今なぜ水素社会なのか
- 3) エネルギー貯蔵・輸送手段
- 4) NEDOの水素エネルギー-白書
- 5) 水素利用
- 6) 海外の状況
- 7) 水素安全
- 8) 水素燃料電池車と電気自動車との比較

2. (19:45～20:45)

【ご講演タイトル】：『技術立国日本の課題～技術士制度の今後の在り方～』

日本技術士会理事・近畿本部副本部長 技術士（建設、総合技術監理）杉本 哲雄 氏

【ご講演概要】

現在、国-文部科学省技術士分科会で複数の論点整理がされた。これを受け技術士分科会に「制度検討特別委員会」が設置発足されて今後の技術士制度の在り方に係る中間報告が提出された。検討は、継続中で、何か見解を書面にまとめたおかないと地域から見た技術立国日本が埋没してしまうと感じた。

小稿は、標題の論点について、地域の技術士からの意見等や見解を記したものである。

☆ 質疑・応答、業務研究会連絡事項など

☆ 閉会挨拶：技術士業務研究会例会担当幹事 技術士（化学） 上田 修史 氏

☆例会後、珉珉にて講師を囲んで懇談会を開催予定、有志の方々のご参加を願います。

以上

◇定員：先着順にて 30 名  
◇参加費：業務会研究会会員は無料、業務会研究会会員外は 1,000 円  
◇申込：2015 年 8 月 2 日（日）までに下記へお願いします。  
懇親会への参加・不参加も合わせてご連絡下さい。  
業務研究会 和田 克利 (gyoumuken@gmail.com)

## 【講師のご経歴】

末利 鏡意 (すえとし てつひ)

### 【経歴】

1968-2005 大阪ガス勤務

化学工場、研究開発、企画、国際、資材購買業務など

Singapore、New York 駐在

2005 株式会社テス・リサーチ設立 (Total Energy, Ecology & Economy System)

事業：3K (環境管理, 海外, 教育研修)

資格：技術士 (総監、化学)

エコアクション21 環境審査人

会員：日本技術士会部近畿本部副本部長

日本化学工学会員

杉本 哲雄 (すぎもと てつお)

### 【経歴】

現職 独立現代都市研究所 代表

生年月 1949 年 6 月

出身地 大阪府泉佐野市

学歴 近畿大学卒業、神戸大学大学院博士課程前期課程修了

職歴 S47 年日本住宅公団 (現都市機構) 入社、同社 (関連会社含む) の管理職を経て平成 26 年退職。同年独立現代都市研究所を設立し代表就任。

専門分野 建設部門、総合技術監理部門 (都市及び地方計画)、1 級建築士

趣味など 街歩き、スポーツ、演劇鑑賞

以上